あなたの「名医」「かかりつけ医」を見つけるために

医師本人やその家族が病気になったときに、かかりたい実力医師220人

旧版に比べて、新たに100人の実力医師を掲載

ほぼ全診療科の実力医師をカバー

本書は、５年前に発刊した『新版　迷ったときの医者選び 広島』の改訂版です。自分や身近な人が病気になったとき、納得した治療を受けるための医療評価ガイドです。広島県内の定評のある専門医や信頼できる開業医合わせて220人を20の診療科別に紹介しています。

掲載医師の選定にあたっては、取材チーム（19人）が専門医に面接取材を行い、その治療内容を聞くとともに、あわせて同じ専門分野の医師を推薦してもらう方法をとっています。推薦基準は、「医師本人やその家族が病気になったときに、かかりたい専門医」です。

患者一人ひとりに最も適応した治療をする専門医を選定

さらに取材チームの一人ひとりも、医師に会った際、自分や家族が患者になったときに、かかりたい医師かどうかという視点で取材を行いました。もちろん、推薦される医師情報に偏り（大学系列や研究会グループ、上下関係など）がないよう、複数の医師から推薦する医師情報を集め、それを編集部でクロスさせながら掲載医師を決めました。

こうした取材を積み重ねることで、アンケートや手術数、治癒率だけでは分からない、それぞれの患者に最も適応した治療をする専門医を選定しています。

本書の特色と活用法

1 かかりつけ医を見つけるために＝定評のある医師、施設計487人(施設)のリストを一挙掲載!

「かかりつけ医」の役割が見直されている今、地域別に身近な頼れる医師・施設を紹介。リストの掲載医師等は、実力医師220人から面接取材で収集した医師情報にもとづいています。医療危機といわれる中、いきなり大病院の専門医にかかるのではなく、信頼できる地域の開業医などを受診する際の参考にしてください。

2 ノンフィクション的手法で、20診療科別に実力医師220人の最新治療、実績・成績を公開

がん・脳・心臓から生活習慣病、婦人科疾患など20診療科別に、専門医に直接会って取材し、収集した情報にもとづき、最新の診断・治療法、実績・成績を紹介しています。

3 日本をリードするスーパードクターと最新治療の第一人者、計10人の広島の名医をリポート!

ひざ関節軟骨の再生技術の世界的専門医から、肺がん手術のスーパードクター、内視鏡のエキスパートなど国内のトップランナー４人と、内視鏡ロボット手術や放射線治療、肝がんのインターフェロン併用療法など最新治療の第一人者６人をリポート。

4 広島大学病院教授が最新の治療トピックと県内の診療レベルを解説（9診療科）

全国レベルの整形外科、呼吸器疾患など９診療科の最新の診断・治療の傾向と診療体制（病診連携など）、治療レベルなどを広島大学病院教授がやさしく解説。現在の標準治療や県内の診療体制の特色が分かりますので、診療を受ける際の参考になります。

5 いざというとき頼れる、女性の病気の専門医、開業医を紹介

女性の病気や、女性に多い疾患の実力医師を紹介。産科・婦人科、乳がん、リウマチ・膠原病など、女性の体を守る定評のある専門医や開業医が最新の診断・治療法を公開しています。

6 「こころの病気」に定評のある専門医を紹介

うつ病を中心にパニック障害、摂食障害、睡眠障害、アルコール依存症、認知症、児童・思春期・青年期の心の問題など、県内の信頼のおける専門医、開業医を紹介しています。会社や学校、家庭や地域などで、さまざまなストレスにさらされる今、最新の治療法などを参考にしてください。

7 「セカンドオピニオンの上手な活用法」「どこを受診していいか分からないとき」「かかりつけ医のつくり方」などインタビュー記事を掲載

セカンドオピニオンは、かかっている医師に遠慮しなくても大丈夫か、何科にかかってよいか分からないとき、どうすればいいか、医師とよい関係をつくるには――。本当によい医療にめぐり合うための心得を、総合診療科の医師や専門医、開業医が詳しく解説しています。

また、医療の細分化時代に注目される「都市型家庭医」として総合病院の総合診療科と、家庭医の役割、活用法も紹介しています。

調査の方法

19人からなる医療情報取材チームを編成し、専門医に直接会って、治療方針や手術方法、実績・成績などを取材するとともに、定評のある専門医の名前をできるだけ挙げてもらい、治療レベルや医師としての姿勢などをお互いに評価してもらいました。

掲載の基準

集めた情報にもとづき編集部で協議。大学系列をはじめ、研究会グループ、上下関係による情報の偏りなども念頭におき、できるかぎり公平に情報を検討して、掲載医師を決めました。評価の基準は、次の通り。

① 専門医のあいだで定評があるか
② 臨床の最前線で治療に携わっているか
③ 患者の立場で医療を実践しているか
④ 他科とのスムーズな連携が取れているか

ご利用にあたって

本書掲載の医師は、編集部からみた「一つの評価」にすぎません。他にも優れた医師はいます。この情報を鵜呑みにしないで、医者選びの「一つの判断材料」としてご利用ください。